

# 社会保険二本松病院

三木市成田町1-553  
0243-23-1281  
0243-23-5086  
<http://www.shaho-nihonmatsu.com>  
発行責任者：院内外報編集部



## 新年を迎えて

病院長 有 壁 謙

あけましておめでとうござ  
います。

昨年は、大震災、巨大津波、  
加えて原発事故と三重苦に襲  
われ、多大な被害を及ぼし、  
現在もその影響は続いており  
ます。あの時、あつという間  
に多くの貴い命が失われ、私  
たち医療人とり何も手助け  
できず、とても悲しい出来事  
でした。またそれ以後、生活  
する家を失われた方々や原発  
事故で避難された方達が、慣  
れない土地での仮設住宅など  
で新年を迎えるを得なかつ  
たこと、本当につらい時間が  
長く続いていると感じます。  
早く住み慣れた場所での平穏  
な生活に戻れますよう、切に  
お祈り申し上げます。

当院におきましては、震災  
後もどうにか電気水道などが  
保たれており、通常時に近い  
医療活動をなんとか継続でき  
ましたのは、幸運な事でした。

さて本年は、病院の電子化  
をさらに充実させてまいります。  
その手始めとして一昨年  
からレントゲンフィルムを廃  
止しモニターをご覧いただい  
ているところですが、今年か  
ら種々のオーダーシステムを  
稼働させる予定です。このシ  
ステムにより、患者さんの

震災直後から、原発による緊  
急避難病院の入院患者さんの  
転院や、地震により透析不能  
病院からの透析患者さんの受  
け入れ等々、全職員の活躍で  
大勢の方々のお世話ができた  
のは、とても嬉しいことでし  
た。とは言つても当初は、病  
院の通信問題、食糧やガソリ  
ン不足などで、不自由な思  
いをしながら頑張りました。し  
かし、それも約二～三週間ほ  
どで回復し、病院機能はほぼ  
平常の状態に戻り、地域の皆  
様によく安心いただけ安  
堵した次第です。

さて本年は、病院の電子化  
をさらに充実させてまいります。  
その手始めとして一昨年  
からレントゲンフィルムを廃  
止しモニターをご覧いただい  
ているところですが、今年か  
ら種々のオーダーシステムを  
稼働させる予定です。このシ  
ステムにより、患者さんの

オーダーは発生源から瞬時に  
かつ正確に伝達できるように  
なります。まさに医療の安全  
や質向上に大いに寄与するも  
のであり、これからは一層地  
域の皆様に安心して満足のい  
たける医療を提供できるも  
のと、確信いたしております。

以前からの当院の課題であ  
りました医師不足問題は、残  
念ながら進展はありませんで  
した。医師の大都会偏在は依  
然としてあり、そこに追い打  
ちをかけるような大震災と放  
射能により、福島県の医師の  
減少はさらに続いているのが  
現状のようです。病院機能の  
低下は何としても避けたく、  
今年は何とか医師増員を果た  
せねばと努力いたします。

嬉しくニュースです。平成  
十四年以来、ご心配をおかけ

し、笑顔と真心を忘れること  
なく頑張ってまいります。

どうぞ本年もよろしくお願  
い申し上げます。



## 再生・改新の年



副院長  
山崎 正明

明けましておめでとうございます。

今年もよろしくお願ひします。

昨年は大変な年でした。東日本大震災の際には、職員の皆さんがそれぞれ自分の部署で頑張つていただき病院としても乗り越えることができました。あらためて感謝します。

あの大地震による死亡者数は約二万人でした。その死因の九二・五%が水死だったそうです。地震による災害においては外傷、骨折など外科的治療を必要とする超急性性の症例が多発すると考えられています。そこで震災時の緊急援助医療チームでは主に外科系の医師を中心とするグループが組織されていました。しかし今回は津波が甚大だったのでそのような被災者は少なく、むしろ透析患者や在宅酸素療法者の治療、さらには糖尿病、高血圧、脂質代謝異常症などの慢性疾患の治療援助を必要とする人が多かったようです。すなわち透析施設の確保、透析機材、在宅酸素療法機材、インスリン製剤および内服薬剤の調達などが問題となりました。今後緊急援助医療チームの在り方も再考していくと考えられます。また今後に備えて緊急援助の方策を検討する学会もあるようです。

いずれにしても年が明けた今年は再生の年だと考えられます。行政、建築・土木関係者の英知に期待します。

当院においても再生・改新の気概をもつて頑張つていかなくてはならない年だと思います。新しい組織による公的病院として再出発することが決まっており、その準備の年であるからです。昨年有壁院長が提唱した「地域の医療機関における患者情報共有化のための方策」の第一歩として、今年はオーダーリングシステムが開始されます。将来的には電子カルテに移行して、他医療機関との患者情報の共有化に寄与していくものと思われます。さて機械の導入だけでなく我々職員それぞれのイノベーションもいかなければなりません。近代医療について、「メカニズムに基づく理解、臨床疫学に基づく理解、患者の病気に対する理

ち透析施設の確保、透析機材、在宅酸素療法機材、インスリン製剤および内服薬剤の調達などが問題となりました。今後緊急援助医療チームの在り方も再考していくと考えられます。また今後に備えて緊急援助の方策を検討する学会もあるようです。

解および患者の価値観を統合して、医療者の経験を踏まえて個々の患者に最適な医療を実践するのが真のEBMと言える」と唱えられるようになりました。病気だけを診るのではなくなってきています。最近いろいろな部署において今まで以上に「患者さんの心を察した看護の実践」を見ることがあります。それを頼も

なったままです。病気だけを診るのではなくなってきています。最近いろいろな部署において今まで以上に「患者さんの心を察した看護の実践」を見ることがあります。それを頼も

さには院内の各システムのノベーションも必要になってしまいます。今年も職員みんなで考え、実践して、検証し、改善を繰り返して、より良い病院をめざして頑張っていきましょう。

## 思いを理解し寄り添う看護を



看護局長  
富永 昭子

謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

昨年は、今まで経験したことのない大地震・大津波・原発事故に、日本中が揺れました。自然の驚異をまざまざと見せつけられ、原発の安全神話も崩れました。

被災地である宮城・岩手など被害の大きかったところでも、復興の兆しが確実にみえてきます。しかし、放射能問題を抱える福島県は、徐染も手付かずのうえ、徐染に必要

な廃棄物の中間貯蔵施設の建設場所すら決まらない現状に心は晴れません。また、原子炉が冷温停止状態になつたことで、政府は「収束」という言葉を使っていますが、本当の収束には三十年以上の年月が必要という意見もあり、判断が難しいところです。少しずつでも良い方向に進んでいることを信じたいと思います。

看護では教育に力をいれ、安全・安心の看護の提供を第一に心掛けています。全国社会保険協会連合会では、千葉県船橋に研修センターを保有しています。セントラルでは多くの研修が計画され、全国五十一の病院から職員が参加し、基礎から応用までしっかりと学ぶことができます。昨年は、被災地であります

がら、認知症ケア・糖尿病ケア・退院調整・がん看護・医療安全管理者養成・臨床指導者養成・看護管理者研修など、多くの研修に参加し学習しました。看護協会研修も合わせ、専門的知識を患者様に還元できるよう、風土と組織作りに努めたいと思っています。

院内研修においては、例年の研修に加え、緩和ケア強化月間として十二月に三日間の研修を試みました。他院の緩和ケア認定看護師に講演を依頼したほか、院内講師として看護職、医師、医療ソーシャルワーカー・介護老人保健施設職員・訪問看護師など、様々な職種の立場からの講演を組み、いのちの重み・人生観・相互の業務を理解した連携の必要性を確認いたしました。この研修は、看護職だけでなく他職種へも呼びかけを実施したところ、予想を超える参加で内容においても好評でした。職種を越え、横断的な取り組みはこうした理解のうえに成り立つものであり、今年の期待できるところです。

患者様やご家族様からのお褒めの言葉も多くなりましたが、反して、お叱りのご意見をもいくつかいただきました。お叱りの意見を謙虚に受け止め、お気持ちを理解し、受け止め、温かい看護に変換できるように努めていきたいと思います。今年も、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 年男・年女

佐藤 恵美子（3階病棟）

今年も明るく元気に前向きに、頑張っていきたいと思います。

佐藤 美保子（栄養課）

昨年は明るいこともなかつたので、今年は「夢」も「希望」も捨てずにがんばっていきたいと思います。

五十嵐 千鶴子（5階病棟）

我が家は辰年生まれが3人で、三辰です。今年もがんばって仕事に取り組んでいきたいと思います。

永傳 雅美（5階病棟）

楽しく個別性を持つ看護ができるようにします。

中村

好（放射線科）

今年も、絆と感謝の気持を大切に過ごしたい。

渡辺 隆子（4階病棟）

去年できなかつたこと、我慢したこと、今年は実現したいと思います。

齋藤 聰浩（施設課）

自分の短所をなるべく無くし、自分の長所と「自分らしさ」を生かして、去年以上に努力していくます。

渡辺 恵美子（外来）

年女です。60歳になります。今年定年！ 第二の人生に入ります。家の断捨離をしたいです。

高橋 美穂（医事課）

実り多い一年となりますように精進して参ります。

菅野 稔（放射線科）

今年は「ハーフマラソン」に参加してなんとか完走する事が出来ました。今年も完走目指し頑張ります。

高橋 美穂（医事課）

成長を見守ってくれて、いるこの病院で、今年も少し成長できるといいなあ。よろしくお願ひします。

佐藤 美智子（腎センター）

震災の早い復興を願い、今自分が出来る事！一人でも多くの患者様と言葉を交わしたいです。

角田 貴子（ME課）

視力・記憶力・消化力の衰えに悩む私ですが、初心に帰り患者さんの立場に立った看護をしたいと思います。

神門 雅子（外来）

成長を見守ってくれて、いるこの病院で、今年も少し成長できるといいなあ。よろしくお願ひします。

好（放射線科）

今年も、絆と感謝の気持を大切に過ごしたい。



# 糖尿病教室運営委員会

柳沼 健之

糖尿病教育入院にともなう糖尿病教室は、現在年に十回行われており、毎年数十名の糖尿病患者さんに療養指導などを受けて頂いています。糖尿病教室運営委員会は、主としてこの糖尿病教室を開催していくことを業務としております。また、難治性の「1型糖尿病外来」や「フットケア外来」なども継続して行つて参りました。

新たな試みとして一昨年は「全国糖尿病週間」にちなむ、院内展示を行いました。平成二十三年には院内展示に加えて、また新たに「糖尿病患者のための夕食会」を開催しました。これは、入院まではできない糖尿病患者さんを対象に、約五五〇から六〇〇キロカロリーの夕食を実際に食べていただきにより、普段の食事療法の改善に役立つことを期待して行つたものです。五月に予定していましたが、東日本大震災のために第一回の開催が九月になつてしましました。平成二十四年にも何度か開催したいと考えております。

当委員会は、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師で構成されています。このうち、日本糖尿病療養指導士の資格をもつものが六名を数え、スタッフの多くが有資格者です。また学会活動として、第



おいて、スタッフの赤岡が「ノンアルコールビールの血糖に及ぼす影響」について発表しました。さらに、スタッフの研鑽のために毎月一度、症例検討を行つたり、外部講師を招いての勉強会も開催したりしております。今後ともスタッフのレベルの向上を図り、患者さんの病気の克服の手助けのために精を出して参りたいと考えております。

栄養課では、【誤嚥防止】【咽頭残留物の除去】【喫食率の向上】【安全で美味しい楽しめる食事】の提供を目的に「嚥下食」を提供しています。金谷節子氏による「嚥下食ピラミッド」の概念を参考に、図に示すような定義を作成しました（老健とも共有）。

嚥下食ピラミッドとは、開始食から

普通食にいたるまでの食形態を6段階に分類したもので。嚥下の難易度はレベル0～レベル5で表し、頂点にいくほど嚥下状態が不良であることを意味します。ゼラチンゼリーから開始し、レベルが上がるごとに品数や形態が変化していきます。

嚥下食を導入して間もない頃は本当に試行錯誤でしたが、介護食ランドを通じてムセリ軽減や食欲増進などの改善効果が実感できると、それが自分たちの喜びに繋がり、更にやりがいを見出せるようになつてきました。

# 安全で美味しい楽しめる食事

栄養課

